

名誉会員 青木楠男先生を偲ぶ

本会の名誉会員 青木楠男先生には、去る昭和62年3月18日永眠されました。(享年93)

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

本学会名誉会員青木楠男先生には去る3月18日逝去された。93歳であった。まだお元気だったのに本当にわからないものである。先生は人も知る橋梁工学の大家で、筆者はかつてロンドンの書店で先生の著書の「橋梁工学」が飾ってあるのを見て感に打たれた思い出がある。先生の学位論文は「本邦道路橋の鋼重」と題するものであるが、先生の眞骨頂はこの標題では隠れて見えないが鋼構造の溶接技術の研究にあったように伺っている。溶接の文字通り草分けであられたわけで、昭和19年に溶接学会の会長になられたのも不思議はないのである。かえってそのような先生が都市計画学会の名誉会員であられた方がむしろ不思議と見えるかも知れないが、本学会の創始者の中心であった故石川栄耀さんと大学の同級生であられたし、また学会創設の昭和26年は石川さんが東京都の建設局長を退いて、都市計画の専任の教授として早大に来られた年でもあった。そして青木先生はそれより5年前に内務省土木試験所長を退かれ、早大に新設された土木工学科を育て上げる仕事に専念されていたのであった。この石川さんを早大の土木に招く前後のいきさつを筆者は青木先生に伺ったことはない。それは全く青木先生のお考えに出たことと筆者は信じこんでいたからであるが、又同時にお二人が同級生であったことに理由を求めたものでもなかった。若い時分は堅い研究者であられたとしても、青木先生は大変視野の広い方であった。敗戦後5年の日本の都市の状況を見ておられて、例え同級生でなくとも、石川さんという天才的なキャラクターを取り逃すことはされなかったと思う。同級生なら余計活し易いことではあったろうが。いずれにせよ青木先生は本学会当初からの会員であられたようである。恐らく石川さんに奨められてのことであろうし、また生まれ立ての学会を一人でも多く支えてやらねばと思われたのかも知れない。しかし一度も役員になっておられない。ほか忙しいうから会には入るが役員は勘弁しろと、石川さんに言われたに違いない。昭和48年になって、われわれ後輩は先生を規定に従って名誉会員に推挙した。都市計画畑での先生の何よりのご功績は早大土木へ専任の教授を招かれたことにあると言っていいのではなかろうか。それにしても石川先生の急逝は先生にとって痛惜のことであったに相違ない。



青木先生は座談の名手であられた。またそれを自ら活字に写し替えられたともいうべき随筆は、本学会顧問の鈴木雅次先生の表現をお借りすれば、「女人の業」であった。そこには全国に散らばっている多数の教え兒達との交情がよく語られているが、先生が巧まざる天成の教育者であられたことを思うのである。

謹んで御冥福を祈る。

日本都市計画学会名誉会員 松井達夫

略 歴

明治26年7月23日、高知市中島町に生る
大正7年7月、東京帝国大学工科大学土木工学科卒
同年 内務省土木局に奉職
同8年 内務技師
同9年 東京第一土木出張所勤務
同13年 欧米各国へ出張
同15年 内務省土木試験所勤務
昭和5年 東京帝国大学講師嘱託
同 〃年 早稲田高等工学校講師嘱任
同 16年 工学博士
同 17年 内務省土木試験所長
同 19年 社団法人溶接学会会長
昭和21年 早稲田大学教授
同 29年 早稲田大学第一理工学部長
同 〃年 社団法人土木学会会長
同 31年 早稲田大学工学研究科委員長
同 〃年 東京都都市計画審議会委員
同 35年 藍綬褒章
同 39年 早稲田大学教授定年退職
同 〃年 本州四国連絡橋技術調査会委員長(土木学会)
同 40年 国土館大学教授
同 〃年 早稲田大学名誉教授
同 41年 日本学士院会員
同 44年 都市計画推進に対する貢献に対し建設大臣より感謝状
同 45年 勲二等瑞宝章
昭和48年 都市計画学会名誉会員